



せせらぎ

春休み号

令和8年3月27日

清瀬市立清瀬第四小学校

春休みは何ため・・・ 「心のみがき、希望をもって新学期をむかえよう」

校長 長沼正城

春の風が心地よく校庭を通り抜けていきます。子供たちのはしゃぐ笑顔と歓声も明るい春の到来を彩ります。

今、春休みに入りました。約2週間。学校からは、「復習をしましょう」という声かけ程度ですが、各ご家庭におかれ

ては、何か取組はされているでしょうか。(ちなみに読書と漢字は最適だと思います。) お子さんから聞かれていますでしょうか。私は修了式で、「心のダイヤモンドを磨こう」という話をしました。そしてそのカードを全員に配付しました。

実は、この話は、私が全校講話で次のように話したことの「まとめ」なのです。「みなさん、これは何でしょうか？」→「いしー！」(石)。「うーん、石のように見えますね。でも実は石は石でも、すごい石なのです。」→「・・・」。「この石を磨くと、すごい物に変身するのです。」→「・・・」。「じゃーん！これです！」→「ダイヤモンド？」。「そうです、ダイヤモンドです。」。「ダイヤモンドって、もともとはこんな石なのです。磨かないときらきらのダイヤモンドにならないのです。」

「どうやって磨くのかな・・・、それは、この石と石をこすり合わせるのです。しかもすごい速さで。そうやって長い時間磨き続けると、だんだんキラキラした宝石になってくるのです。簡単ではありません。粘り強くやらないとダイヤになりません。」

「皆さんの中にある『心』も、何もしなければキラッと光りません。もともとはこの『石』のようなもの。どうやったら光るのでしょうかね・・・。磨く？・・・、そう磨くのです。磨くためには何をしたらいいのでしょうか。それをまずは自分で考えて、一つ一つのマスに書き込んでみましょう。」と。

このような話をして、課題として子供たちに出しました。ぜひご家庭で話題にさせていただいて、**ちょっとがんばればできそうなことを具体的に**決められるといいと思います。

ちなみに、私がリスペクトするオオタニショウヘイは、高校生のときに、ダイヤモンドの部分を「運」と考えて、次のようなことを書きこんだそうです。①から⑧。子供たちにとっては、一つ一つが具体的な行動になるとよいと思います。振り返りがしやすくなります。では、以下ご参考までに。

心のダイヤモンドをみがこう
- 「運」のよい人生のために -



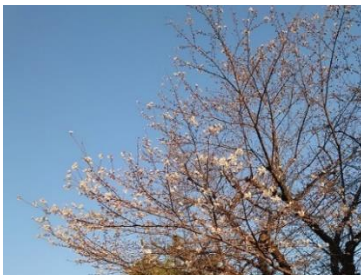
- ①あいさつ ②ごみ拾い ③部屋の掃除 ④道具を大切に ⑤審判さんへの態度 ⑥プラス思考
- ⑦応援される人間になる ⑧本を読む。

このように、自分なりにやろうと決めて、それを実行する「春休み」は素敵ですね。

さて、右の文字をよく見てください。何と書いてあるでしょう。これも先日、講話で話しました。「じーっと、よく見ないと、見えてきませんよ。」と。「分かった人は、手を挙げて・・・。」と。けっこう集中しないと見えないものです。ちょっと目をそらしてしまうと、また見えなくなります。不思議な感じです。「有るようでない、無いようであるもの。」それが「心」というもの。『星の王子様』の有名な言葉を思い出します。キツネが王子様にこう言います。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。大事なことは、目に見えないんだよ。」と。



よく見ること(読むこと)、そしてよく聞くこと(対話すること)。それが、その子の力を伸ばします。実は、賢いか賢くないかの境目は、非常にシンプルなのです。良く見ている子はよく考える子になります。よく聞く子も良く考える子になります。しかしそのシンプルなことを繰り返すのは、実に難しい。私たち大人は、それをよくわかってあげることが大事です。



子供たちは、素直な心で挑戦をします。しかし、すぐにくじけてしまいます。でも心の底では「できるようになりたい!」「自分も分かるようになりたい!」と思っているのです。目には見えませんが、確かに思っているのです。だから原点の「よく見ること」にもどり、「よく聞くこと」に戻ることが大事なのです。そうすると桜と同じように、徐々に花びらが開き、ある瞬間にパッと咲き誇るものなのです。

どうか貴重な春休みが「心のダイヤモンド」を磨くスタートとなって、希望の新学期を迎えられること、祈っています。※『心のダイヤモンドカード』は新学期に持たせてください。

三分咲き四分五分も咲きああ満開！ くじけずにまたくじけずに清四っ子！ 遠い空応援のココロうぐいすと！

卒業式 式辞 「待て、そして希望をもて」

校長 長沼正城

桜の花が一輪また一輪と咲き始めて一週間。今日の門出を祝うかのように、校庭の桜は今満開に向かっています。卒業生の皆さん！私は皆さんからたくさんの感動をもらいました。修学旅行でのきびきびとした集団行動、ちょっと困っている仲間には優しく声をかける姿。運動会で心をつにした凛々しい演技。そして庄巻の「みんなの音楽会」では心の底から感動が湧き上がりました。そして昨日の詩の群読「生きる」と「雨にも負けず」で、6年生の威厳を示しました。

それにも増して、3学期の国語の授業も素敵な姿をたくさん見せてくれました。私は、何度となく教室に足を運びました。それは対話を中心とした授業でした。学習のめあてを追究する中で、一人が6人も7人もの人と対話しながら、考えを広げ深める姿に、学ぶ楽しさとはこういうことなのか、と深い感動を覚えました。考えを広げ、深め、高めて、一人一人が自分の中で一番いい答えを創り出していましたね。

今日はその総まとめをしたいと思い、2つの話を通して想像をふくらませながら、一緒に考えてみたいと思います。最初の話は、「1つのオレンジ」という話。ある姉と弟が1個のオレンジを取り合っていました。「私のだ!」「ぼくのだ!」と一歩も譲りません。もしここで、お父さんがやってきて「うるさい、半分に分けなさい!」と言って、切ってしまったら、どうなるでしょう。二人とも半分しか手に入らず、不満が残ったかもしれません。でも、二人は「対話」を始めたのです。「ねえ、どうしてオレンジが欲しいの?」とお姉さんが聞きました。すると弟は「喉が渴いたから、中身を絞ってジュースにしたい」と言いました。「じゃ、お姉ちゃんは?」と問い返しました。「お菓子を作りたいから、香りのいい皮が欲しい」と。そうして、二人はどうしたと思いますか。「なるほどね…」「そういうことか」と言って、弟が中身を全部もらい、姉が皮を全部もらいました。二人とも100点満点の笑顔になりました。つまり二人は「幸せ」を創り出したのです。「**相手が何を望んでいるのか**」を聴く。それだけで、問題が解決したのです。

もう一つは、「不思議な晩餐会」という話です。目の前には、世界中で一番おいしい料理が並んでいます。しかし、一つだけ奇妙なルールがありました。それは「1メートルもある、とても長いスプーン」を使って食べる、というルールです。ある人々は、必死に自分一人で食べようとしました。しかしスプーンが長すぎて、どうしても自分の口に料理を運ぶことができません。無理に食べようとして料理をこぼし、互いにぶつかり合い、結局誰もお腹を満たすことができず、不満だけが残りました。ところが、隣の部屋の人々は違いました。みんなが幸せそうに、温かな笑顔で食事を楽しんでいたのです。一つ部屋が違うだけで何が違っていたのでしょうか。実は彼らは「対話」をしたのです。隣に座っている者同士で、自然に対話が始まっていたのです。対話が深まってくると、ある人が言いました。「私が隣のあなたに食べさせてあげるといのは?」。「なるほど、それをお互いにやればいいのか。」と。これこそ「対話」の素晴らしさ。**お互いにじっと耳を傾けて、自分の考えと比べながら考える**。自分の考えを恥ずかしがらずに口に出してみる。それが知恵となって、**新しい考えを生み出す**。それこそが皆さんが授業の中で発揮していた力でした。**対話の力は生きる力**です。誰とでも対話しながら朗らかに人生を歩んでください。

最後に、卒業生の皆さんには、1月半ばから教室に出向いて、読み聞かせをしてきました。その本は「がんくつ王」。原作は「モンテクリスト伯」。海外の名作に触れる機会はありませんかと思いきや、そのストーリーの面白さと、「人間はどう生きるべきなのだろうか」という「問い」が常に浮き上がってくる作品です。皆さんはじっくりと想像しながら聞いてくれました。この物語の最後のシーンで主人公エドモン・ダンテス（モンテクリスト伯爵）が残した言葉は、「待て、そして希望をもて」。どんなに苦しくても大変でもじっと待て。その先には必ず希望があるから!というダンテスの心の叫びです。皆さんの門出にふさわしい言葉です。そのまま皆さんに贈りたいと思います。

ご家族の皆様のごこれまでのご苦勞に敬意を申し上げます。これからの多感な時期になりますが、家族での対話を大事にしなが、短い時間でも心が通うひと時を願っています。晴れのご卒業、誠におめでとうございました。

さあ、卒業生の皆さん、決意の言葉と希望の歌声を体育館一杯に響かせてください。卒業生が一人残らず、自分の思い描く人生を切りひらくことを祈りつつ式辞といたします。(※一部省略したり追加したりしています。悪しからず。)

本日、ご来賓としてご参列いただいた地域協力者の谷村鯛夢先生（俳句出前授業講師）から、「6年間を振り返ると、最初はそうはいかないことがいっぱいあったよね。」「でも今は…」ということで、有り難いことに、一句贈ってくださいました。

「起立礼きれいに揃い卒業す」「きれいに揃い」に万感を込めて。

令和7年度卒業式

～写真で見る卒業式特集～

